



兵庫県小野市

～酒米の王者「山田錦」を守りたい！～ 地元企業が日本酒の販売拡大と地域農業を 守るため農業参入

かぶしがいいしやぶじわら

株式会社藤原（なかご）

WEB サイト：<https://nakago-guinomi.com/>

参入法人の概要

法人形態：リース法人

代表者名：代表取締役社長 藤原 克弘

所在地：兵庫県小野市万勝寺町 268-258

設立年次：平成 21 年 3 月

資本金：300 万円

農業参入：令和 4 年

営農形態：土地利用型、露地栽培

主要作物：水稻（醸造用玄米、うるち米）、白ネギ

経営面積：7ha（借入 7ha）

主な販売先：JA、米穀販売店、OEM で日本酒製造

売上額：800 万円（農業売上高）

従業員：5 人（常勤 2 人、非常勤 3 人）

●農業に参入した目的を教えてください

株式会社藤原は鋳型中子の製造会社として加東市で創業し、その後小野市に工場を移転しました。

コロナ禍の影響により会社の売り上げが減少したため、事業の多角化が必要であったことや、酒造好適米「山田錦」の主産地である地元が高齢化や後継者不足の課題を抱えている中、地域に根付いた企業が農業をすることで将来にわたり地域農業を守りたいと考え、農業に参入しました。（農業部門はひらがなで“なかご”と称しています。）また、農業参入と同時に、経済産業省の「中小企業等事業再構築促進事業（事業再構築補助金）」を活用しライスセンターを新設しました。



新たに整備した乾燥調製施設(ライスセンター)

●当該土地・当該作物を選んだ理由を教えてください

農地は、創業者の出身地である加東市松沢を中心に所在しています。当地は現在の工場所有地の小野市との境界地にあり、加東市、小野市は酒造好適米「山田錦」の主産地でもあることから、後継者不足である地元の農地と「山田錦」を守っていききたいと思ったからです。

日本酒については多様な可能性を感じ、生産した山田錦を使用して、兵庫県内の酒造会社で OEM（委託製造）を始めました。また、自社のライスセンターでは受託もしており、生産者別に乾燥・調製できるため、産地（集落）や生産者を限定した日本酒の製造・販売を行っています。

また、有機農業者からの誘いを受け、水はけの良い土地を利用し令和 6 年から白ネギの有機栽培を始めています。



水稻栽培の様子

※OEM とは、「Original Equipment Manufacturing」の頭文字を取った言葉で、委託を受けて他社ブランドの製品を製造すること。

●参入にあたって栽培技術面等の課題にどのように対応されましたか

当地域では、当社の創業者自身も長年山田錦を栽培しているため、昔からの知識・ノウハウがありました。また、地域に根ざした企業ということもあり、村の農家様からもアドバイスをいただいています。

●販売先、販路についてはどのように確保されましたか



山田錦は、生産量の 1/3 は村米制度による契約栽培で JA に出荷、1/3 は米穀販売店との契約栽培、残りの 1/3 は兵庫県内の二つの酒造会社（姫路市/壺坂酒造(株)、丹波篠山市/狩場一酒造(株)）と OEM で日本酒を製造・販売（特別純米酒〔松沢-matta-〕、純米吟醸酒〔小澤-ozawa-〕、純米無濾過原酒〔新定-shinjo-〕）しています。

また、令和 5 年産から山田錦の中米を原料とした米粉の製造・販売を行っています。

OEM製造した日本酒 （左）特別純米酒〔松沢-matta-〕、（中）純米吟醸酒〔小澤-ozawa-〕、（右）純米無濾過原酒〔新定-shinjo-〕

●農業参入して気づいたことや地域との関係について気を付けていることがあれば教えてください

大切な農地を個人に対してではなく会社に残せることで、従業員による農作業によって、将来的にも営農活動に継続性が生まれるので、安心してお預けいただいています。また、地域に根ざしている会社であるため、農業参入を歓迎していただいていることを実感しています。

水利の管理、草刈り、用水路の掃除など地域への参画が必要であることは理解していたので、区役等については積極的に従業員で対応し、地域と良好な関係を築いています。

●今後の経営方針について教えてください

今後、①経営面積を 20～30ha 規模まで拡大、②調理用として引き合いが強い米粉を菓子用に販路を拡大、③OEM で製造した日本酒と本業の技術を活かした錫製品の酒器をセットで販売といったことを考えています。

白ネギについては 3 年後を目途に有機 JAS 認証取得を目指したいと考えています。さらに、米も有機 JAS 認証取得を検討しています。



本業の技術を活かした錫製品の酒器

●今後、農業参入しようと考えている企業へのメッセージをお願いします

農業に参入するためには、地元住民とのコミュニケーションや地主等との信頼関係が大切です。そのためには、農地を借りているだけではなく、地域の一員として一緒に農業をやっていくんだという気持ちが大事だと思います。そして、はじめから利益を追求しないことが必要だと思います。

また、インスタグラムや SNS を活用して情報を収集し、販売戦略を考えておく必要もあると思います。